

銀の輔 銀座千枚

銀座の街って碁盤の目みたいになってる。路地が多いし、行き止まりも鍵の手の道もあるよって反対意見も一杯だけど、名前の付いた縦横の通りをざっくり見れば、ほぼほぼ碁盤の目でもいいんじゃない。それに比べて地下道は迷路。

本当は迷路じゃないんだ。丸ノ内線、銀座線、日比谷線、隅っこには有楽町線と浅草線、色んな地下鉄の通路や改札が行く手を阻むので、迂回してるうちに方向感覚が狂う。だから取り敢えず外に出てみて、ああここかあつて思うんだ。

でも四丁目の交差点くらい行けるよと高をくつてると、工事中で閉鎖中。銀座クロッシングの完成で、四丁目交差点は工事終了だと安心してたら



大間違い。でもお陰で、思わぬ景色が垣間見えたりして、こういうのが期間限定っていうんだろつなご、ちよつと得した気分になれる。天下の銀座四丁目、一体どんな入り口が出来るんだろつなご地下鉄出口が気になるのも、この街ならではのね。

高野金次郎商店

親切第一 平成30年秋冬号

版元:東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大塚2-26-1
 fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com
 協力:高島平電脳研究所、築地河岸工房
 関連ウェブ:各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索すると
 ボータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.boo.jp/

勝手にお気に入り5

この夏以降に見た映画

ベスト5

- ・黙ってピアノを弾いてくれ ニューヨーク ジャクソン
- ・ハイツへようこそ
- ・ブーと大人になった僕
- ・顔たち、とどころどころ
- ・スターリンの葬送狂騒曲
- 次点:世界で一番ゴッホを描いた男、アントマンとワスク、陸軍前橋飛行場。

湯島の宝は思い出の中に……

清水坂の小さな道標にどれだけの人が気付くか分からないけど、きつと坂の途中、右奥の旨い下



イツパン屋のがつと有名なのは当然としても、名のないバーやサンドイッチがいかす喫茶店、可愛い雑貨屋に仏教書専門店など、天神様に辿り着くには、思いの外時間がかかるんだ。

三組坂の交差点、一年中かき水を食べたいカフェのちよい先に、定食八木はあった。仕事帰りが散歩中だったか、ふらつと入つてお昼ご飯を食べただけで、何から何まで完璧だった。骨まで食べられるのに、ふつから焼き上がった一夜干しは言わずもがな、ご飯とおみおつけの旨さに感激した。ご飯粒がお茶碗にへばりつかない、しつかりした炊きあがり。熱々で出汁と味噌の風味が融合するおみおつけ「夜も定食が食べられるのよ」と笑う女将さんの物腰は、柔らか



くて爽やかで小気味良い。

湯島に用は少ないけど、遠回りにしても寄り続けた。夜はヒールと共に。でも通えたのは本当に少しかった。「あそこはね、湯島の宝なんです」、並びのカフェのお兄さんの言葉が、解体を待つ元定食屋の風景と重なつていく。僕の店は、こうして少しずつ思い出と化していく。

東京プチアーカイブ

例によって旧実家から救出した中途半端に古い写真から手繰る東京物語。

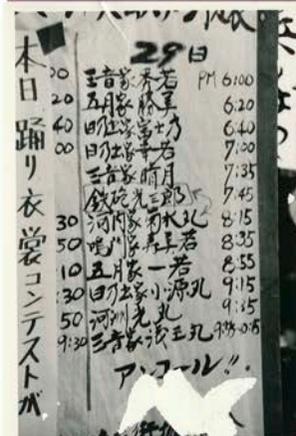
ジョイフル三ノ輪は圧倒的な商店街だった。ジョイフルの八百屋は質量共に素晴らしく、スパーがないのが嬉しく、当時はチェーン店らしき店もなかった。都電とは反対側の小道を入ると、ほぼ長屋な年季の入った木造家屋が軒を連ねていた。そして昼間でも人通りが一杯。

しかし先ず都電を降りてジョイフルのメインストリートに出る手前の佇まいが素敵で、左は商店街、真正面は洋館風な写真館を抜けて日光街道、左には小さな居酒屋がキュッと肩を寄せ合っていた。左に折れてすぐの時計屋さんは、閉まっただけでもフォトジェニックで、目覚まし時計を顔に見立てて描かれたシャッターのセンスに感動した。確か都電の正面の顔を描いたシャッターもあったはずだ。



今も三ノ輪は楽しいけど、ちょっと空気が変わってしまった。店は入れ替わり、小奇麗になり、極楽荘という名のアパートは本当に極楽浄土へ旅立ち、シャッターの目覚ましおさんも消えた。錦糸町の夏を彩る河内音頭が、パチンコ屋の二階を出て丸井の裏の広場でやっていた頃、その活気よりも怪しさに心惹かれた。魚寅も小さくて、場外馬券場帰りのおじさん目当ての安飲み屋も多かった。どっか恐いって気持ちも少しあった。これがなかったら行く機会がない町だった。河内音頭への興味は、新世界ナワレコードで古い落語のレコードを漁っている時に生まれた。菊水丸がリクルートのCMで脚光を浴び始めた前後だ。彼のカセットテープや幸枝若の河内音頭レコードもあり、少しづつハマり始めた時に、友人に教えられたのが錦糸町だった。

薄暗くて想像出来ない広さの場所、強烈なリズム、エレキサウンド、ダイナミックなマメカチマンボ、後ろの席に陣取る朝倉喬司や平岡正明などの東京河内音頭振興隊のたならぬ風体の面々。ある年、遂に鉄砲光三郎に出会うことが出来た。僕の中では勝手に伝説上の音頭取りにしていたので、口バクじゃないか。なんて言われたけど、いやいや違うって。小柄な体から生まれるパワフルな鉄砲節を生で聞けただけで幸せだった。年に一度、ここでだけ会える友人もいたりして、「行けば誰かいる」、そんなイベントだった。「しこのめ」という言葉は知ってても、東雲の文字とが繋がったのは、大人になっから。大人たちの宴会に紛れていた頃、「東雲のストライキ」の歌詞だけが先行していた。年に数度しか行かない晴海から先に行くようになったのは、中型バイクの免許を取ったから。信号が少ない倉庫街の直線道の日曜日、遠出しないバイク乗りには丁度いいコースだった。その頃、僕は東雲の存在を知り、湾岸エリアを走る楽しさを



知った。古い倉庫では時折、映画かテレビのロケもやっていた。倉庫街だと思っただけで、鉄鋼団地の看板を見つけ、行ってみたら工場年季の入ったアパートっぽい集合住宅があり、不思議な生活感が漂う街だった。いきなり葦細工のおじさんがいてビックリした。手作りの箒や民芸品チックなものを荷台に満載し、毎週来るんだよって。まあ吾気な商売が、こんな東京の隅っこにあった。今や豊洲に続くマンション群になりつつあり、葦細工の自転車はいないだろうし、もう似合わない街になった。東雲のストライキも名古屋の話だったのも、ずっと後のこと。



高級句誌
俳人同様
 Haijin Doyo
 三朝庵梅里・筆
 SAN CHO AN BAI RI



年月が現行品をレア物に 梅里

手入れ良き緑笑顔の一直線



お約束ベスバの上には工藤ちゃん

ポンコツ通りの旅



交差点よそ見必至の黒き文字



ポンコツの名も風前の灯と

大川中川結んだる、運河暨川
 一直線、両国駅から三之橋渡り、
 二本目の道の交差点、左右の道
 路も一直線、墨田区立川一丁目、
 迷わず左に折れたれば、一見普
 通の道筋なのに、ポンコツ通り
 と人は言い、かつて沿道埋めた
 るは、自動車修理にパーツの販
 売、売り買い盛んな店ばかり、
 今の車もオールドカーも、探す
 部品は必ず揃う、自動車界の秋
 葉原、そんな期待を打ち砕く、
 新規マンション個人宅、徐々に
 陣地を拡大し、かつてのメ
 ジャーも今マイナー、なれどよ
 すがはキッチリ残り、渋い木製
 ウインドウ、並ぶランプもレア
 物で、スリリと並ぶドアの群れ、
 所々に工場が残り、つなぎ姿の
 おじさん達が、手を真っ黒に仕
 事中、狭い間口にぎっちり工具、埋も
 れたベスバも年代物で、路地を覗け
 ば植木鉢、スリリ並んだ風景に、ここ
 も本所と思知り、魅惑の酒場は着
 板のみで、営業終えて幾星霜、もっと
 早くに壊くんだった、巨大更地にた
 め思ついで、行き着く先は大横川、ポ
 ンコツという言葉も今や、死語同然
 と諦めて、踵返せば青空の、下に広が
 る一直線、小春日和の元ポンコツ。

北口番外編

東京大塚カウンター異聞
K'sバーの人々

ですから。まあうちの店ではアルコールは出しませんがね」「じゃあタイタンでアメリカン・クラフトビールでも?」「あそこの餃子はなかなかいいですね。朝っぱらから酒の話が止まらないのも、飲み屋タウン・大塚ならではのなあ。

「アタシは一年中ビール党です。また台風が来るんじゃないかと戦々恐々としてたら、いきなり大塚も秋が深まり始めた。大型トラックと生コン車とクレールン車と都電…鉄の塊が跋扈する風景は相変わらずだだけど。」

* * *

「薄ら寒くなってきましたね、ペンギンさん。いつの間にか白シャツにジャケットを着て、いかすおじさん風情を醸し出す鐘ヶ淵さんが、開店準備中のうちの前を通り掛かった。『そろそろ、ビールから爛酒にチェンジですか?』」

たくなる。

「かと思えば、銀だこにコマダに晩林屋が出来ましたね」「あの変則六叉路周辺は、チェーン店が陣地を取り始めたんですかね。回転寿司が紅とんになったのがきっかけかも」「コマダ珈琲が入った所も、元はさくら水産ですから、頼みの綱はキッチンゴトー」。

「アタシは一年中ビール党です。また台風が来るんじゃないかと戦々恐々としてたら、いきなり大塚も秋が深まり始めた。大型トラックと生コン車とクレールン車と都電…鉄の塊が跋扈する風景は相変わらずだだけど。」

* * *

「薄ら寒くなってきましたね、ペンギンさん。いつの間にか白シャツにジャケットを着て、いかすおじさん風情を醸し出す鐘ヶ淵さんが、開店準備中のうちの前を通り掛かった。『そろそろ、ビールから爛酒にチェンジですか?』」

です。ね」「そーいや巢鴨警察に入る道の角、セブンイレブンがあったとは、テナント募集中のままですよ」「また戻って来ませんかね、コージーコーナー」「大塚はパン屋も少ないけど、ケーキ屋も無いですから。鐘ヶ淵さんの言う通り、大塚は甘味不足の街だ。『思い返してもジュール・ド・リゼットはいいケーキ屋でしたかね』『あゝ、まつやの角の隣にあった店ですね』『正統派のフランス洋菓子店でしたよ』『ペンギンさんの店があるビルの地下に、パン屋さんとかケーキ屋さんが出来たら最高じゃないですか』『おゝ、グッドアイデアも僕なら日参しちゃうでしょうね』『アハハハ、きつと肥っちゃいますね、アナタ』」。

「アタシは一年中ビール党です。また台風が来るんじゃないかと戦々恐々としてたら、いきなり大塚も秋が深まり始めた。大型トラックと生コン車とクレールン車と都電…鉄の塊が跋扈する風景は相変わらずだだけど。」

* * *

「薄ら寒くなってきましたね、ペンギンさん。いつの間にか白シャツにジャケットを着て、いかすおじさん風情を醸し出す鐘ヶ淵さんが、開店準備中のうちの前を通り掛かった。『そろそろ、ビールから爛酒にチェンジですか?』」

「撤退したセブンイレブンで思い出したけど、あの向かい角の東邦レオって会社に、時々キッチンカーが来るんです」「ほほう、大塚にキッチンカーですか」「正面玄関ではコーヒーを無料で振る舞ったり、太っ腹ですなあ。で、その会社は何屋さんですか?」「それがね、今ひとつ分からないんです。ビルの緑化とからしめて…」

「アタシは一年中ビール党です。また台風が来るんじゃないかと戦々恐々としてたら、いきなり大塚も秋が深まり始めた。大型トラックと生コン車とクレールン車と都電…鉄の塊が跋扈する風景は相変わらずだだけど。」

* * *

「薄ら寒くなってきましたね、ペンギンさん。いつの間にか白シャツにジャケットを着て、いかすおじさん風情を醸し出す鐘ヶ淵さんが、開店準備中のうちの前を通り掛かった。『そろそろ、ビールから爛酒にチェンジですか?』」

編集後記のようなもの

今年にはサボりにサボった高金商店で申し訳ありませんでした。

店の引越しの想像以上に大変で、落ち着きのない一年を送ってしまいました。来年はもう少しちゃんと書かねばと思っはいるんですけど、思っはるんですけど、思っはるんですねえ…。★配布協力感謝・千駄木・古書ほろろ、吉祥寺・ブックスルーエ、雑司ヶ谷・旅猫雑貨店、法善寺横丁・洋酒の店路、築地・ふげん社、淺草・珈琲アロマ本駒込・青いカバ、平井・平井の本棚、大塚・ペンギン堂雑貨店。